

学校再開から見えてくること?!

変わったこと、変えねばならないこと、変えてはいけないこと

「コロナ後の学校」をどうするか

6月1日から分散登校が始まり、生徒の元気な顔を見ることができ教員としてホッとしたところでした。当初はまだまだ緊張感の方が大きく、笑顔や会話はほとんどありませんでしたが、登校できたことの喜びで粛々と時が流れていた感じがあります。

しかし、今はどうでしょう？マスクの着用や1日1回の消毒は行なっているものの、授業・休み時間・部活動等まったくコロナ以前に戻っていると思いません。生徒の元気な活動は嬉しい限りですが、通学バスや学校生活は「密」そのもの。これでは感染者が一人いたらクラスターは避けられないでしょう。これは現場の責任ではありません。

ではどうしたら良いのでしょうか？再びの休業や休校が必要なのでしょうか？行政府が収入が無くなった人たちへの経済的な補償

高校配置計画の問題点

「新たな特色ある学校」

特色ある学校がみどろ道教育、学校間格差＝学校の特色なのか

6月2日に発表された高校配置計画案に関する石狩学区地域別検討協議会が7月31日に開催されます。前号のはばたきでも指摘したが、計画案では小規模総合学科の募集停止、普通科フイールド制の転換が示されました。道教委がこれまですすめてきた「特色ある学校づくり」が行き詰まる一方で、初となる「新たな特色ある学校」の位置付け・指定を行いました。これは、破綻した「特色ある学校づくり」路線を取り繕って延命をはかろうとしたもので、いくつもの問題点があります。

「新たな特色ある学校」とは、配置計画案では「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成に重点を置いた学校」と説明されています。入学選抜の結果、学級減が続き野幌高校・千歳北陽高校の2校を2022年度から位置づけるとしています。そもそも、「基礎的・基本的な知識・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成」などは、すべての高校が担うべき課題であり、位置づけ・指定したから取り組まなければならないことではありません。これらの課題と向き合

い日々奮闘している学校は数多くあります。それぞれの学校が目の前の生徒たちの現実から出発して、学校が学校づくりをすすめているのが現実の姿です。

位置付けることで学校間格差を制度化

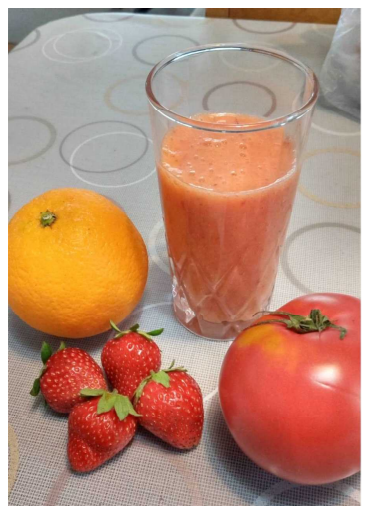
しかし、道教委がこのような位置づけを行うとなれば、事情が異なってくる。位置づけすることは、都市部で顕著な競争的な入試選抜によって形成された学校間格差・「輪切り」状態を追認したうえで、「義務教育段階の学習内容が十分定着していない生徒などを対象」とする学校として公認することです。それは序列下位にある学校を「新たな特色ある学校」と呼び、学校間格差を「学校の特色」と言い換えることに過ぎません。しかも、学校間格差を生み出す入試制度を主導している道教委がそれを行えば、位置づけは固定化さ

問われる道教委の本気度

道教委が「新たな特色ある学校」のモデルとして参考にしている東京都のエンカレッジスクールは、1年次における30分間の国語、数学、英語を中心とした習熟度別学習と少人数授業、二人担任制による指導、週1回午後実施する体験的学習などを特色として打ち出しています。また、入学選抜に学力検査を実施しない、定期考査は一切実施しない、公募教員を転入させるなど、独自の施策を組み合わせたことで成果を高めているとしています。しかし、道教委は、「指針」で「他都府県の事例なども参考にしながら検討します」と「取

日々新たな気持ちで!

6月に自粛が解け実質的な新学期を迎え、私の新たな特別支援学校生活が始まりました。「新たな」というのは今年から訪問学級の担当になり、今までの学校での授業から在宅もしくは病院での授業をするようになったことです。保護者の手を借りたり看護師と連携したりしながらというふうになり、かなり特殊な状況での授業です。病院では困難な病気と立ち向かう子どもたち、在宅では家から出られない状況の子どもたちと本当にオーダーメイドの授業をひとつひとつ作り上げている感じがします。そんな中で私が在宅で担当している



丸山 稔

A君は少しだけ手を動かさせています。調理実習で季節のスムージーづくりです。アスパラ、ほうれん草、いちごのスムージーの写真を見せて「どれにする？」と聞くと、いちごで目を大きく開けてアピール。食材買い出しは私。ところがスーパーにイチゴがない!どう考えても今が旬なのに。これもコロナのせいなのか?江別の農場まで遠出をすることになりました。実習当日はいちご、トマト、オレシジ、サクランボを手でつぶし、香りを嗅ぎ、なめて味わいという下ごしらえの後、ミキサーの登場。ミキサーは特殊なスイッチをつなぎA君の手のわずかな動きをとらえ動きます。見事なスムージーの出来上がり!ほとんど調理をしてくれたお母さんと3人で乾杯。ほんの少し口で味わいおなかの経管栄養へシリンジで食べさせてもらいます。少しトマトの主張が強いけどとてもおいしいスムージーでした。という感じで、日々貴重な経験を子どもたちと共有しています。

手稲養護学校 桑原岳夫